

愛知老人コミュニティーセンター ニュース

まきば通信

11号 10周年記念号

日本基督教団
愛知老人コミュニティーセンター
〒470-0111 日進市米野木町南山987-88
TEL. 0561-74-5548
FAX. 0561-74-5561

ホームページ <http://www.mb.ccnw.ne.jp/makiba>
E-mail makiba@mb.ccnw.ne.jp
発行日 2007年6月17日
発行人 鈴木 卓也

まきば開設10周年感謝礼拝 「希望は欺かない」

日本基督教団中部教区 前総会議長 楠本史郎

シルバーホーム「まきば」が開設してから10年の歳月が流れました。愛知老人コミュニティーセンター本部室も作られ、立派な介護棟も出来ました。その初めを多少とも知る者として驚いています！夢のようです！感謝です！心よりお喜び申し上げます。

アブラハムはイスラエル民族の先祖といわれています。もともとはカルデアのウルという大変豊かな土地で何も苦労のない生活をしていました。ところが神様は「そこを出て行きなさい。わたしが示すその土地に行きなさい」と言われました。そして「子孫の繁栄」を約束されました。アブラハムは神様の約束を信じ、新しい土地を目指しました。ご計画が実現していくことを信じたのです。

パウロは「そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを」と言っています。

パウロは「神様がわたしたちの希望をかなえてくださる」というのです。「希望はわたしたちを欺くことはない」「わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです」。イエス・キリストが来られ、わたくしたちの罪を背負って十字架におつきになりました。主の復活の希望をわたしたちに与えてくださり、わたしたちを生かしてくださる、その神様がいらっしゃる。だからわたしたちは絶望しません。信じます。望み続け、そして生きるのです。

愛知老人コミュニティーセンターとシルバーホーム「まきば」の10年は、必ずしも初めから順調であったわけではありません。諸教会の祈りがここに集められています。そして何よりも主がともにいてくださいます。ここを愛し、支えていてくださいます。主を見上げましょう。そこに希望があります。共に感謝しましょう。

ご一緒に生きる希望の源であるイエス・キリストを見上げていきたいと願います。

※3月13日におこなわれた「まきば」開設10周年感謝礼拝の中での説教を要約したものです。



「まきば」の10年を歴代の理事長に聞く

設立10周年を迎えた「まきば」。今日に至るまでには、様々な困難を経験し、多くの方々のお祈りにより支えられてきました。

今回は歴代の理事長をつとめられた、戸田伊助牧師、篠田潔牧師のお二人にお話をお聞きして、「まきば」の10年を振り返っていただきました。



初代理事長 戸田伊助先生のお話

「まきば」設立にかけた思い

教団の議長をつとめた後、名古屋教会の働きの中で授産施設「さふらん生活園」を作りました。障害を持つ子どもの祈りに突き動かされ、切迫した思いで始めました。

「まきば」設立の場合は、教会の高齢化がきっかけでした。隠退した牧師や信徒の行き場がない。教団も老人ホームを作っていましたが、必要性は高まるばかりでした。こうした世相に押されたことが動機でした。はじめは漠然とした願望であったかもしれませんが。

「さふらん」の時とは「切迫感」の質が違いました。「まきば」の場合は、真綿で首を絞められるような感覚ですね。そして、次第に私と意思を同じにする人が、私のところに集まってきました。

隠退教師に対する教団の姿勢には疑問を感じていました。それが私の出発点でしたが、信徒のことも考えてほしいという意見も当然出てきました。

やがて老人同士の助け合いという一つの理念が浮かび上がってきました。個人主義ではなくて、隠退教師の処遇を含めて、老人同士が助け合う、共同性が成り立つような施設を目指したいと考えました。

そこで、お金の問題についても、隠退教師の分、十分に持たない人の分を持っている人が出しましょうという教会福祉献金の入居一時金のプール制度を作りました。調査の結果、制度的には自由な「寄付金」であれば可能であることも分かりました。

この「助け合い」の理念に「まきば」の心があります。

開設当時の苦勞

開所当時、法律や職員の問題など、施設長だけでは収められず、理事長自らが、陣頭指揮に立たなければならない場面が沢山あったように思います。しかし、正直なところを話せば、私は「経営」ということについては、全然ダメなんです。

教団の問題のような孤獨な戦いには強いのですが、組織の運営は下手くそです。

入居者の方々から、理事長に直接向けられる苦情の処理にも苦慮しました。老人施設での仕事も、自分も含めて未経験の職員がほとんどでした。

「まきば」が叶えた夢

実際に「まきば」に入所されて、安心された方々がおられます。教会関係者の方です。本当に良かったと思いますね。

「まきば」は一つの「長屋」ですから、皆さんと一緒に支えあって暮らしていけるよう願っています。長屋の「共同性」を築くには時間がかかります。「まきば」は個人の自由が尊重される「共同性」の息づく場所であってほしいと思います。



私自身も今、週に一回ほど、女房と一緒に近所のデイケアセンターを利用しています。皆で食事や花見にも出かけます。

そこでは、私も牧師の肩書きから離れて自由です。普通に皆さんと付き合えます。若い職員からも、先に利用を始めた妻は「戸田さん」と呼ばれますが、



現理事長 篠田潔先生のお話

教区との合意に向けて

2001年のことでした。介護専用棟建設の問題が難航、「まきば」では理事会の総辞職という事態に陥りました。

建設には手続き上の困難な作業が伴ったのですが、それが教区三役に負担をかけることにもなったので、常置委員会には理事会の提案の仕方に対する不信感がありました。これを取り除くことが、私が理事長を引き継ぐことになった当面の課題でした。教区と理事会間の合意に達することが急務でした。教区側の努力もあって、合意文書の作成に至りました。

この合意がなされたことによって、教区常置委員会と「まきば」理事会とが、それぞれの責任において「まきば」の課題を担うことが出来るようになって、今日の成果を見るに至ったと思います。

今後の「まきば」の目指すもの

振り返れば、入居者の方の中から受洗者が与えられたことは何よりも喜ばしいことですし、最近では経営も安定しています。高額な献金が捧げられたことは感謝でした。そのことによって介護棟の建設に踏み切ることができました。うれしかったですね。皆さんの祈りと支援によって支えられた10年でした。

後輩の私は「イスケさん」です(笑)。始めは奇妙な感じでした。しかしこの頃は、肩書きによらない付き合いの味わい、平等な関係をむしろ楽しめるようになりました。

「まきば」でも、同じようにできたら、いいんじゃないかなあ(笑)。



新館も完成し、職員の体制も整えられてきました。長期的に安定した運営を継続することが、第一の望みです。

教会福祉献金の今後の運用の仕方も課題です。隠退教師をめぐる状況は、以前とは変わってきています。かつては退職金を用意できない教会も多くありました。牧師が亡くなった後、経済的な困難のために家族が引越しもできないというケースもありました。しかし、現在の教団年金は、一応隠退後の住居費相当分になっています。

とは言うものの、牧師を取り巻く条件によっては、隠退後、不安定な立場に追い込まれることもあります。介護が必要になる方もあるでしょう。そうした場合には、教区による心配り、斡旋などの手続きが必要になるでしょう。

「まきば」の今日は、日常の経営努力の積み重ねによるものであると思います。思いがけない要件もあって人も変わりましたが、大切なのは積み重ねですね。

お年寄りにも喜ばれ、職員も安心して働くことができる施設であるためには、やはり毎日の努力と経験の積み重ねによって力を蓄えることが、これからの運営にとって一番大切であると思います。

「まきば」10周年・記念写真館

宗教法人日本基督教団に属し中部教区が運営する有料老人ホーム、シルバーホーム「まきば」が1997年1月6日にオープンして10年が経ちました。

それを記念して3月13日、多くの来賓をお迎えして、「10周年感謝礼拝」と「感謝パーティー」を開催、入居者・職員共々に祝うことができました。

また本館改修により、1月末には「愛知老人コミュニティセンター本部室」がオープンし、「開設感謝祈禱会」も開催されました。

その様子を紹介すると共に、懐かしい10年前の写真も合わせてここに掲載しました。「まきば」の10年を共に喜んでいただきたいと思います。

10周年感謝礼拝



感謝礼拝で説教する
楠本史郎 中部教区総会議長(当時)▶

愛知老人コミュニティセンター本部室・開設感謝祈禱会



▲ 篠田理事長によるお祈りの後、共に賛美

10周年感謝パーティー



▲ 礼拝の後、来賓の皆様と楽しいパーティー



▲ ボランティアの皆様へ感謝の花束



懐かしい10年前の風景



▲ 完成間近の工事現場



▲ 工事現場の前に立つ
加藤初代施設長



▲ オープニングパーティーでの
職員紹介

「俳句・短歌」

今回は「まきばの十年」「まきばの生活」をテーマにして、
入居者の皆様に詠んでいただきました。

〈俳句〉



十年住む「まきば」に春の恵みあり

山下 比奈子



十年過ぐ 十字架つむ 山ぞくら

浅野 み柝

野は緑 「まきば」は十年 経て清し

後藤 正子

介護され 眺める今朝の 桜かな

大谷 多可子

はや十年 過す「まきば」に 桜咲く

井上和子

初風宮や 「まきば」五階の 展望湯

山内 義盛

桜咲き「まきば」の人ば 皆やせし

坂野 はる子

手を引かれ 介護ホームの 花と見に

藤高 好子

初戸出や 先づ新館を 見て廻り

松井 真

お花見や 十年の絆 深めつつ

城崎 幸子

山ぞくら 見ゆる「まきば」に 住み慣れり

朝倉 和代

十周年 祝ふ花見の 華やかに

伊藤 好子

ほのほのと「まきば」をつつむ さくらかな

石原 信良

十周年祝ぐ 花に十字架の 光り満つ

森 枝葉子

もの芽の さみどりめでつ、 一と巡り

吉田 祈年子

通路宿 秩父七湯 杖休め

安井 照男

時計鳴る 一人で過す 初夏の夜

鈴木 あさ子

〈短歌〉



そよ風に 熱田の杜の 木洩れ日は
葉づれと共に 彩をなすなり

森島 利定

草むしり さつきの陰に なつかしや
立ちつばすみれ 微笑み咲く

中村 姉佐

「まきば」新館礼拝室にて中部教区常置委員会を開催しました。

中部教区常置委員・前書記 加藤 幹夫

2007年2月19日(月)、シルバーホーム「まきば」新館の礼拝室に於いて中部教区常置委員会の第1日目を開催することができました。設立当時、さまざまな議論がなされた「まきば」で、教区常置委員会が開催できたことは感慨深いものがありました。また、理事長、施設長をはじめ施設職員の方々には会議室の設定、昼食など、多くのご配慮をいただき、会議を円滑に進めることができ、感謝でした。



そして、何よりも、「落ち着いた礼拝の場、祈りの場を建設したい」という願いが新館において実現できたこと、その皆様の思いを教区の会議を通して肌で感じる事が

でき、大きな喜びでした。

この「まきば」が、今後も、目に見える介護のみならず、目に見えない主イエスキリストの願いと恵めに支えられて、その働きが祝されますようにと祈っております。



「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」

(Ⅱコリント4:18)

■愛知老人コミュニティーセンターへの献金報告

献金者芳名 (2006.4.1～2007.3.31) (敬称略)		
教会福祉献金	匿名者2名	合計 2,500,000円
センター維持献金	真木芳子、愛知西地区教会婦人会連合、一色義子、小崎弘雄、大島純男・長子、戸田伊助、仲田水尾子、三澤克己、本弘礼子、篠田優、深谷佐和子、志村ゆづ、前田正子、元吉良子、横松順子、篠田潔、岡崎教会、鈴木卓也、名古屋学院一麦会、渡辺徹朗、志村信夫、名古屋一麦教会、熱田教会、尾陽教会、安城教会、溝口敏江、金沢本町教会、岡崎真人、中部学院大学・中部学院大学短期大学部宗教委員会、鷲尾孝一・勝子、丹羽進、同盟福音天白キリスト教会、安野歩、和田正躬、鳴海教会、名古屋中央教会、愛知東地区教会婦人会連合、匿名1名	合計 788,440円

なお、教会福祉献金の累計額は、**63,726,338円**です。
また、通常献金から建築費用を支払った残として**76,906,031円**が積み立てられています。
皆様からの献金を心より感謝申し上げます。

献金振込先

- ① 三菱東京UFJ銀行 日進支店
(宗)日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
理事長 篠田 潔
普通口座 1162658
- ② 郵便振込
日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
振替番号 00870-4-29934

入居予約申込 受付中

見学や体験入居もできます(要予約)



日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター
silver home

まきば



シルバーホーム「まきば」と共に祈りの生活を……
広い牧場を臨み、近くに愛知池があり、
緑豊かな自然に包まれて暮らす…
真向かいに病院があり、牧場をはさんで
教会もあります。



キリスト教プログラム 「聖書の学び」「讃美の集い」などの定例集会が
毎週施設内であり、自由に参加できます。
主日礼拝出席者のために、日本基督教団南山教会からバスが迎えに来ます。
その他、南山教会の「聖書研究祈禱会」、真向かいにある愛知国際病院の
「聖書集会」にも自由に出席することができます。

- 交通機関** 名鉄豊田線(名古屋市営地下鉄舞臺線より直通乗り入れ)黒笹駅から徒歩5900m
東名高速道路・三好ICから3.4Km 日進市公共巡回バス・南山エピック南から200m
- 提携医療機関** 医療法人財団愛泉会愛知国際病院(内科、外科、整形外科、皮膚科、リハビリテーション科、
神経内科、胃腸科、肛門科、循環器科、リウマチ科)、 武田歯科医院
- 類型及び表示事項** 施設の類型/介護付有料老人ホーム(一部住宅型) 居室の権利形態/利用権方式
介護保険/愛知県指定特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護
入居時の要件/60才以上で入居時自立及び要支援の方
介護居室区分/個室及び二人部屋 介護にかかわる職員体制/2:1以上
- 入居一時金** 1人部屋/1500万円(22.05m²)
2人部屋/2200万円(32.76m²) 返還金制度あり



お問い合わせ先

(〒)日本基督教団 愛知老人コミュニティーセンター シルバーホーム「まきば」
〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山987-88
TEL 0561-74-5548 FAX 0561-74-5561 <http://www.mb.ccnw.ne.jp/makiba>

編集後記

はなやかさとエネルギーに満ちた季節
を迎えておりますが、皆様お元気で過ご
してでしょうか。

今号は、「まきば」が誕生して10年の節目
を迎えた「記念号」として企画いたしました。
巻頭に、先に行われた記念礼拝での説教要
旨を掲載いたしました。改めて神様の語り
かけとして心に留めたいと思います。感謝会、
本部室完成感謝祈禱会などの様子もご覧
ください。

また、入居者による「俳句・短歌」は、まき

ばの10年として読んでいただきました。

開設時からここに至るまでの歩みは、戸
田伊助初代理事長と篠田潔現理事長に、編
集委員がインタビューの形で取材させてい
ただいたものです。

先人の信仰と苦勞によって建てられた「ま
きば」が、これからも神様のみ栄えが現れる
クリスチャンコミュニティーの一つとして、
祝福の中に運営されていきますよう、引き
続き皆様方の祈りとご支援をお願いいたし
ます。

(眞木芳子)

